その男、『こしつ』にて。

作・ぬるま湯。

僕は今日、待ちに待った
18才になれた。

これで堂々と告白できる。

(大人)

合法で!!霊幻さんに!!。

一度深呼吸をしてから、
インターホンを押した。

ピンポーン

出てきた霊幻さん!?、

ガチャ？、

ん？、律？、

服が絶望的にダサイ!!、

今日告白される事を
知らないにしても、ダサイ！

雰囲気終わってる。
…オイ、こっちを見るな。

この男、僕が好きだなんて

何か用っ？

一ミリも思っていない。

苛つくな僕。おさえろ。

話が…あります。

とりあえず手短かに伝えた。

頼られてるとか勘違い

まあ上がれよ。

してないか？腹立つな。

くそっ…無視だ無視。

おじゃまします。

ポーカーフェイスだ僕。

誰にも聞かれたくないので

えっ?

部屋に入って即バリア。

そして僕は長年の想いを

霊幻さん、好きです。

という四文字で伝えた。

一世一代の告白された奴の顔じゃないだろ。

服と同じ顔するな。

まーた。冗談言って
俺をだまそうとしてぇ。
エクボ！どこだ？

いや、
冗談であってほしいのは僕だ。

仕方ないですね。

と言い、

ボロン

…。

ズル

僕は強行突破する事にした。

僕の長年の想いの丈を

律!?

サッ

は!?

!?

思い知らせてやりたい。

僕を意識させたい。
ぐぬぬ…
ちょ…超能力は
卑怯っ…だぞ!!
そして僕の事考えて!!

僕はふにゃふにゃな
ソレを口に含んでみる。
びくん
あっ♥
と声を出した♡

口の中で舌も使うと、
律っ
やっ♥
んん!!
あっ…っ!!
段々かたくなっていった。

一度離してみると、すごく
ぴくん♡
ぴくん♡
反り立っていた。

僕は今、好きな人を
気持ち良くさせている。
何ていい気分だ。
あん
ハァ
ハァッ
ダ…父!!
ハァ
ぐちゅ
ぐちゅ

もっと僕の名前を呼んで。

あっ♥

びくん

もっと

びくっ

ぐちゅ

ぐちゅ

そして僕の事だけ考えて。

僕の事しか考えられずに
僕に狂って下さいぃ
びくんっ!!
やっ…イクっ
びくっ
ハア♡
ダメっ…イクっ…リつっ…!!♡
ハア

罪悪感と背徳感を
あっ♥
ア
ぴくっ
ハァ
～♥
びくっ♥
一緒に背負いますから。

僕は本気だ。
この人には僕しかいない。

僕だけの為に存在してるんだ。

ハァッ

伝わりましたか!?

ハァッ

ハァ♥っっ

ハァ♥

他の人達にバレないように
しなきゃ。

明日、いい返事きければ、
"続き"してあげますね。

ハァ
ハァ

未成年だった僕に遠慮した事。

ニコォ

じゃあ、また明日。

みんなで後悔してね。

義理堅いあなたはきっと
僕を受け入れるしかない。

霊幻さんはもう
僕のもの。

その男、

『こしつ』にて。

Numayu

おまけ
おかえり律。ケーキあるよ。
兄さん。ただいま。
うわ

着替えてくるね・・
・・・。
どうした？、シゲオ。

!
何でだろっ、律から師匠のにおい…っ？

りっちゃん・・・まさか
霊幻に手でも
出したのか？
・・・シゲオの
気持ちを
知ってる上で
霊幻に一体何したんだ⁉

・・・・
なーんで
みんなあんな
胡散臭い奴に
惚れちまうんだ。
まったく・・・・、
シゲオも律も
・・・俺様も。

そっか

おっさん臭っ、
気のせいだろ。

end。